

第6学年1組 国語科学習指導案

平成30年11月7日(水)第3校時

6年1組 (在籍児童数 計33名)

授業者 教諭 宮岡 修平

1 単元名・教材名 6年1組展覧会を開こう!～「この絵、私はこう見る」(光村図書)～

2 児童の実態

本学級の児童は、「書くこと」の学習として、これまで「時計の時間と心の時間」で、本文の事例について自分の経験と照らし合わせて読み進め、筆者の主張に対する自分の考えを書き、筋道の通った文章にする学習を行った。また、「ようこそ、私たちの町へ」では、五年生に向けて「湯の丸パンフレットを作ろう」という学習課題を設定し、読み手を惹きつける「構成」、「表現」を工夫すること、推敲を通してより良い作品にすることなどを学習してきた。前単元の『鳥獣戯画』を読むでは、鑑賞文の特性を理解した上で、絵と文を対応させながら読み、筆者の「評価を表す言葉」や「説明の工夫」を見つけ、簡単な鑑賞文を書く学習をしてきた。

学習が進むにつれて、文章を書くことについての抵抗は薄れ、苦手な児童も自信がついてきた様子が見られる一方、児童の作品に使用される語彙が少なく作品に個性が出にくい。また、構成や説明の仕方でも、やや型にはまった作品が多く、文章のバリエーションを増やしていくことが課題である。

3 本単元の意図

本単元は、国語科学習指導要領解説、高学年の「B 書くこと」の指導事項のうち、

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

オ 表現の効果などについて確かめたり、工夫したりすること。

を目標に指導する。特に、「オ 表現の効果などについて確かめたり、工夫したりすること」について重点的に指導する。この目標を達成するために、本単元では、「6年1組展覧会を開こう」という課題を設定した。「展覧会を開く」ことを目的とし、前単元の『鳥獣戯画』を読むでの読み取りや本単元の各活動への学習意欲を高めたい。また、読み手を意識させることで、文章表現や構成を工夫する動機付けにつなげたい。

本教材の目的は、自分で選んだ絵について、「どの部分を見て(事実)」「何を感じたか(意見・感想)」に着目して分析的に向き合い、自分なりの解説文を書くことである。この学習の中で、同じ絵を見ても感じ方には人によって違いがあることや、絵の見方がその人の個性や性格、価値観を表すことなどを感じ取らせ、互の個性を認め合う事に繋げたい。そのためには、文章表現や文章構成にも個性が出るように、語彙を選択させたり、記述の順番を考えさせたりする学習ように指導する。

学習過程としては、まず前単元の『鳥獣戯画』を読むで、絵とじっくり向き合わせながら、筆者の表現や説明の工夫を考えさせ、本単元に繋げる。次に、教科書の作品「猿のいる熱帯の森」について、全体で話し合い、絵を見る「視点」や考え方の方向性を確認するなど、スモールステップで進めていく。

4 単元の目標

- (1)自分なりに絵画から読み取ったことを、進んで伝えようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- (2)表現の効果を考えたり工夫したりして書くことができる。(書くこと)
- (3)事実と感想、意見などを区別するとともに、必要に応じて絵の様子を簡単に書いたり、詳しく書いたりすることができる。(書くこと)
- (4)語句と語句との関係を考えながら、文章の中で使うことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特筆に関する事項)

5 単元の評価規準

	ア 関心・意欲・態度	ウ 書くこと	オ 言語事項
単 元 の 評 価 規 準	(1)自分なりに絵画から読み取ったことを、進んで伝えようとしている。	(1) 事実と感想、意見などを区別し、必要に応じて絵の様子を簡単に書いたり、詳しく書いたりしている。 (2) 表現の効果を考えたり工夫したりして書いている。	(1)語句と語句との関係を考えながら、文章の中で使っている。 (2)表現の効果を考え、語感や言葉の使い方に関する感覚に関心を持っている。
評 価 規 準 学 習 活 動 に お け る 具 体 の	①絵画を見て、感じたことを進んで伝えようとしている。 ②自分で選んだ絵画を観察し、自分の言葉で鑑賞文を書こうとしている。	①自分で選んだ絵画を観察して、事実(見た場所)と感じたこと(意見)を分けて書いている。 ②自分で書いた文章を見直して、自分の考えがより伝わる言葉や構成を工夫して書いている。	①文の書き出しや文末表現の役割、接続語の役割を理解している。 ②思考に関わる語句について、その役割を理解している。

6 単元計画 (★本時3／6時間)

時	学習活動	○学習内容	評価規準・[評価方法]
1	①教師の作った「アートブック」を見て、単元の見通しを持つ。 ②「猿のいる熱帯の森」を見て、学習課題をつかむ ③絵から読み取れることを発表し、鑑賞の視点を確認する。	○学習の見通しと学習の進め方 ○本時の課題の把握 ○絵画を見る視点の共有	ア・(1)-① [発言・ノート]
2	④「アートブック」に書きたい絵を選ぶ。 ⑤「事実」と「感想」に分けて読み取ったことを付箋に書く。 ⑥付箋をワークシートに整理し、どの順で書くか決める。	○課題の把握 ○事実と感想の分類 ○考えの形成 ○構成の検討	ウ・(1)-① [付箋・発言]
3 ★	⑤前時のワークシートについて、グループでアドバイスをし合う。 ⑥再度、ワークシートを見直し、下書きメモを完成させる。	○文章の良いところなどの共有 ○文章の推敲	ウ・(2)-② [発言・ワークシート]

4	⑦『鳥獣戯画を読む』での既習事項を想起する。	○既習事項の確認 ・書き出しの工夫 ・記述(表現)の工夫 ・詳しいところ、簡単なところ など ○考えの記述	オ-(2)-② [作文メモ・発言]
5	⑧「書き出し」や表現を考える。 ⑨作文メモをもとに、下書きをする。 ⑩「アートブック」を書く。		オ-(1)-① [下書き・作品]
6	⑪アートブックを読み合い、感想を発表する。 ⑫単元の振り返りを行う。	○考えの共有	ア-(1)-① [発言・振り返り]

7 本時の展開

(1) 自分で書いた文章を見直して、自分の考えがより伝わる言葉や構成を工夫して書くことができる。
(書くこと)

(2) 展開

時	学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
つかむ 7	1 教師の下書きメモを見てアドバイスの視点を考える。	① 推敲の視点 ・高畑さんの絵を見る視点 ・高畑さんの説明の工夫 (板書計画参照)	・教師の作った下書きメモを拡大し、アドバイスを考えさせ、推敲の視点を掴ませる。 ・推敲の視点をまとめる際、前単元の既習事項を確認させる。
	2 めあてを確認する	② めあての理解	
	㊦ よりよい解説文のために、ワークシートを見直そう。		
考える 3	3 自分の下書きメモの内容や構成を見直す。	③ 情報の整理の仕方	・前時に作ったワークシートを見ながら、自分の考えをまとめさせ、アドバイスタイムに備えさせる。
深める 25	4 アドバイスし合う。 (同じ絵を選んだグループ)	④ 構成の検討 ⑤ 推敲の仕方	・アドバイスを受けたものを付箋にメモさせることで、話し合いの成果を見える化させる。 ・話し合いが進まないグループには、導入で確認したアドバイスの視点を想起させ、話し合わせる。
	予想される児童のアドバイス 絵の見方に関わるもの(事実) ・色の組み合わせには気がつかなかったので真似したい。 ・人物の表情に注目して、セリフを考えているのが面白い。 ・全体を見ると暗い感じに見えるけど、一人一人は楽しそうにも見えるよ。 ・いろいろなところに、同じ模様が使われているね。意味があるのかな。		評価場面 〈学習活動に即した評価規準〉 ウ-(2)-② 〈評価方法〉 発言・ワークシート

	評価や解説の言葉(考え・感想) ・セリフのようなことば ・まるで～のよう ・見事に ・実に素晴らしい ・とびきり～ ・なんて～ ・「見たことない」 ・のびのび ・つい見入ってしまう ・思わず～になる		〈手立て〉 ・アドバイスができない児童には、教師と問答し、考えを引き出させる。 ・自分の感じたことをうまく表現できない児童には、教科書巻末の言葉のたからばこなどを利用し、言葉を選ばせる。 ・アドバイス用の付箋を見直させ、学習の深まりを感じさせる。
まとめ 10	5 話し合ったことをもとに、下書きメモを整理し直す。	⑥ 考えの形成 ⑦ 構成や内容の検討	・考えが深まった児童の振り返りを発表させることで、学びを共有させる。 ・次時の予告をし、学習意欲を高める。
	6 学習の振り返りをする。 7 言葉の貯金箱の発表 8 次時の予告を聞く。	⑧ 学習内容の振り返り ⑨ 学習内容の共有 ⑩ 語感・言葉の使い方 ⑪ 次時の学習への見通しと動機付け	

8 板書計画

